

「発達障がい」って何だろう？

発達障がいは日常的にさまざまな困難がある一方、周りの人からは気付かれにくい障がいです。今回の特集では、発達障がいの特性や配慮の方法などを紹介します。なお、発達障がいは一人一人違う特性がある多様な障がいであり、紹介する特性の例が、全ての方に当てはまるものではありません。
※障がいの種類は世界保健機関(WHO)が定める国際疾病分類(ICD-10)に基づいて記載しています
詳細 障がい福祉課 ☎211-2936

監修：札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」

発達障がいとは？

生まれながらに、脳機能の発達の仕方に差がある障がいです。決して、保護者の育て方や本人の努力不足、心の病気ではありません。コミュニケーションや集中することなどを苦手としますが、得意な分野では優れた能力を発揮する場合もあります。

どんな種類がある？

代表的な種類として、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(A/D/HD)、学習障害(LD)があり、広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害では、知的発達の遅れを伴うことがあります。障がいごとの特性が少しずつ重なり合って表れたり、年齢や環境により目立つ特性が違ったりすることなどから、どの障がいかを明確に診断するのが難しいこともあります。



注意欠陥多動性障害 (AD/HD)

気が散りやすく集中ができない、じっとしていることが苦手、考えるよりも先に動いてしまうことなどが特性です。大切な予定を忘れてしまうことや物をなくしてしまうことが多く、同じ間違いを繰り返してしまうこともあります。



学習障害 (LD)

知的発達の遅れや視聴覚障がいの原因ではなく、聞く、話す、読む、書く、計算するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることが極端に苦手です。読み書きや計算をするのに、とても時間がかかったり、よく間違えたりしてしまいます。

この3つのほか、本人が意図しない体の動きや発声をしてしまうトゥレット症候群、単語の一部を繰り返したり、伸ばしたりしてしまい滑らかに話すことができない吃音(症)なども発達障がいに含まれます。

広汎性発達障害

コミュニケーション能力や社会性に関して特性が見られる発達障がいの総称です。自閉症やアスペルガー症候群などがあります。



自閉症

表情やしぐさから相手の気持ちを読み取るのが苦手、パターン化した行動を取るなどが特性です。また、言葉の発達の遅れや、特定の物事への強いこだわりも見られます。急に予定が変更となったときや初めて行く場所では不安を感じ、動けなくなったり、突然大きな声を出してしまったりすることがあります。

アスペルガー症候群

自閉症と同様にパターン化した行動を取る、コミュニケーションを取ることがとても苦手などの特性が見られます。明らかな言葉の発達の遅れは伴いませんが、はっきり止められないと話し続けてしまう場合があります。





「虎の巻」、読んでみませんか？

発達障がいのある方と接する時のポイントを、職場や学校、子育てなどのそれぞれの場面ごとに、マンガでまとめた「虎の巻」を作成しています。ホームページから、ぜひご覧ください。

ホームページ



事例で特性を知ろう

相手の特性に応じた適切な対応をすることで、発達障がいのある方が本来持つ力を引き出すこともあります。ここでは、4つの事例から適切な対応を考えます。

特性④

忘れ物が多いことも



忘れ物をしがちなDさん。先生のアドバイス通りにメモを取り、前日のうちにお父さんと準備することで絵の具を忘れずにつけておくことができました。先生はその成果を具体的に褒めています。

適切な対応

メモ帳を活用するなどの工夫を。しっかり褒めることも大切

メモを取ってかばんの目立つ場所に付けるなど、本人に合った工夫を促すことが大切です。また、成果が出た時には、時間を置かず具体的に褒めることが本人の自信につながります。

特性③

予想外のことに驚き、かんしゃくを起こすことも



公園へ行く時にいつも通る道が、ある日突然通行止めになっていました。驚いたCさんは、公園に行けなくなったと思いきや、かんしゃくを起こしてしまいました。

適切な対応

むやみに叱らず、少しの時間待ってみる

むやみに叱るよりも少しの時間待つことで、早く気持ちが落ち着く場合があります。周囲の人も、「なぜ保護者は叱らないんだ」と思わずに温かく見守ることで、保護者の気持ちも楽になります。

特性②

状況を読み取るのが苦手なことも



Bさんは「この職場では半ズボンをはかない」という暗黙のルールや、上司の「いいね」という皮肉を理解することができませんでした。

適切な対応

ルールをはっきりと伝える

遠回しに言うのではなく、してはいけない事やその場に合わない事、ルールは具体的に伝えることが大切。この場合は、「職場では長いズボンをはいてください」と伝えるのが適切な対応です。

特性①

言葉だけの指示、曖昧な指示が理解しづらいことも



Aさんは、先輩の「適当に」という曖昧な表現に戸惑いました。具体的にどのくらいの量を塗るのか理解できず、必要以上にクリームを塗ってしまいました。

適切な対応

具体的に、目で見て分かるように伝える

曖昧な表現は避け、具体的に伝えましょう。特に、広汎性発達障害の特性のある方の多くは視覚的な情報の方が理解しやすいといわれます。この場合は、見本を使って説明するのが適切な対応です。



どこに相談する？

まずは、普段の生活状況をよく知る身近な人に相談しましょう。例えば、保護者は子どもの通う保育園や学校の先生、働いている本人であれば職場の上司などが考えられます。また、本人の身近にいる人と一緒に相談窓口で相談できると、学校での様子を踏まえた自宅での子どもへの接し方をアドバイスしたり、職場での様子の聞き取りから、担当業務の見直しを会社に提案したりするなど、相談員が状況に応じたより具体的な支援を行えることもあります。



◀ 相談窓口はこちら

身近に相談できる人がいない場合は、区役所(1ページ)の保健福祉課にご相談を

できるだけ早くに気付くことが大切

特に子どもの場合、できるだけ早く発達障がいがあることに気づき、「分かる」「できる」経験を積み重ねることで、自己肯定感を高めたり、発達や学びを促進したりすることも期待できます。保護者にとっては、早期に子どもの特性を知ること、養育への適切な助言を受け、子どもとより良好な関係を築くことができます。

発達障がいに気付くポイント

※下記は一例です。他にもさまざまな特性が見られます

- コミュニケーション
 - ☑ 場にそぐわない言動をしてしまう
 - ☑ 曖昧な表現が分かりにくい
 - ☑ 自分が知っている事は全部伝えたい など
- 興味・関心
 - ☑ 狭く深く知ることが得意
 - ☑ いつもと違う事があると不安 など
- 感覚
 - ☑ 触覚・聴覚・嗅覚・視覚などが極度に過敏、もしくは鈍い
 - ☑ 不器用さが目立つ など
- 多動衝動
 - ☑ 思い付いたら即行動する
 - ☑ 話し出したら止まらない
 - ☑ 何かをしている方が落ち着く など

「心のバリアフリーガイド」を配布しています

障がいのある人などに対する偏見をなくし、理解を深める心のバリアフリー。本ガイドでは、さまざまな障がいの特性や困り事、配慮の方法を解説しています。

配布場所 区役所(1ページ)、市役所3階障がい福祉課、ホームページ



ホームページ

専門家にお聞きしました

札幌市
自閉症・発達障がい
支援センター「おがる」
坂井センター長



「おがる」とは？

「発達障害者支援法」などに基づいて設置された機関。発達障がいのある子どもや成人の方への支援体制を整えていくことを業務としています



周囲の人たちの心がけ

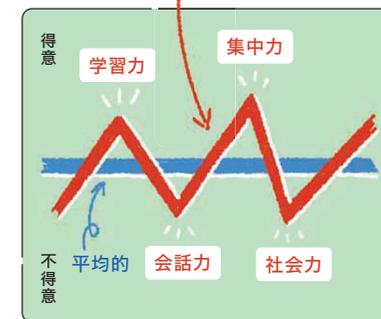
発達障がいを正しく理解した上で、次に「どう配慮するか」について考えていきます。例えば、伝えたい事が伝わらないときは、同じ事を繰り返し伝えるのではなく、伝え方を変えてみることでその人に合った伝え方の「コツ」が見つかるはずです。

ちょっと抽象的だったかな。もう一度、具体的に説明してみよう

発達障がいを理解する難しさ

発達障がいの特徴として、できる事とできない事の差が大きいこと(発達^{でこぼこ}の凸凹)が挙げられます。例えば、勉強はとてでもできるけれど人との会話は極端に苦手ということもあります。周囲の人は、できるところが見える分、極端にできないところを目の当たりにすると、「そんなはずはない」「頑張り足りない」などと思ってしまうがちですが、発達の凸凹がある人もいるということを理解することが大切です。

発達の凸凹の例



障がいの有無に関わらず、みんながより暮らしやすい街になるように、今日から私たち一人一人の意識を変えてみませんか。